

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第13回）

議事要旨

日時 2013年1月21日（火）17:00-19:30

場所 日本学術会議 6-A（1）会議室（6階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、長野幹事、西尾幹事（スカイプによる参加）、岩本委員、大隅委員、岡田委員、田中委員、永原委員、伊藤委員

陪席 文部科学省研究振興局学術機関課 加藤様、杉浦様

日本学術会議事務局（石原参事官、中島上席学術調査員 他）

※今回、本分科会としては初めて遠隔（テレビ）会議システムを導入し、西尾幹事はスカイプを用いて大阪から会議に参加した。

配布資料

- (1) 資料1：前回議事要旨（案）
- (2) 参考1：委員名簿

議題

※公募および審査・評価に関する審議については非公開とすることが荒川委員長から提案され、了承された。

1) 前回議事要旨（案）の確認

前回議事要旨の確認を行い、原案通りに了承された。

2) 学術研究領域名について検討

- i) 第1部の心理学・教育学委員会の「人間社会の持続的発展にこたえる心の科学の構築」から「の構築」の文言を削除する。
- ii) 第1部の人文・社会科学融合領域の『学術研究領域のとりまとめ』での取り扱い（学術研究領域から学術研究小領域に移動した件）について佐藤部長にご了解頂くように、松沢先生から説明する事とした。
- iii) 第2部の学術研究領域について、基礎生物学委員会の「バイオインフォマティクス、システム生物学」と統合生物学委員会の「バイオインフォマティクス」は重なりが見られるため、岡田先生が調整する事とした。
- iv) また同様に、第2部の学術研究領域について、基礎生物学委員会の「進化学」と統合生物学委員会の「生物進化」も重なりがあるため、岡田先生が調整する事とした。
- v) 更に、第1部の心理学・教育学委員会の「動物行動の柔軟な適応と集団行動創発」と第2部の統合生物学委員会の「動物行動の柔軟な適応と集団行動創発」は同じなので、松沢先生が調整する事とした。
- vi) 第2部の学術研究領域について、臨床医学委員会の「医工学（医工連携）」を削除し、基礎医学委員会の「工学技術による医学・医療の革新」を残すこととした。
- vii) 上記の変更を含め、最終案を次回の分科会（2月8日予定）で決定する。

3) 審査・評価プロセス（案）について検討

- i) 評価は部での対応もあるため、「分野別委員会委員長あるいは部長」とする。
- ii) 分野別委員会委員長あるいは部長はそれぞれ「xx分野学術大型研究計画評価分科会」を

設置し、審査・評価を行う。「xx 分野学術大型研究計画評価分科会」は、10 名程度の会員・連携科員で構成される。人数の「10 名程度」は分野別委員会に所属していない連携会員がいるため、確保できると考えられる。

- iii) 採択件数は応募件数に対して全てを比例配分で決めるのではなく、本分科会が内容を精査して、場合によっては本分科会として採択できる計画もあり得るとする。そのための件数として 10 件程度を考えている。
- iv) すでに予算化がなされたプロジェクトについても、学術大型研究計画として、その進捗状況が相応しいと判断されれば別表に掲載する。
- v) 別表に掲載する計画はマスタープラン 2010、2011 に掲載された計画以外のものは含まないものとする。

#### 4) 募集要項について

- i) 募集要項は基本方針として研究者中心ではなく、研究機関中心として記述する。
- ii) i)に基づいて、募集要項の「提案者および推薦者」は「提案および推薦」とする。
- iii) 「他分野への波及効果」を記載する項目を設ける。
- iv) また、最終的にマスタープラン 2011 の視点で取りまとめを行い、1 計画につき A4 版 2 枚にまとめると良いとの意見が出された。
- v) 次回の分科会 2 月 8 日までに最終案を作製する。そのための検討案の作成は松沢先生に依頼された。

#### 5) 次回

次回は、平成 25 年 2 月 8 日 10 時から開催の予定。

以上